

イモリ

イモリくん
座布団「せんじ」
持っていきちてん

Vol. 54



しんぶん



発行日：2022年 11月 22日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

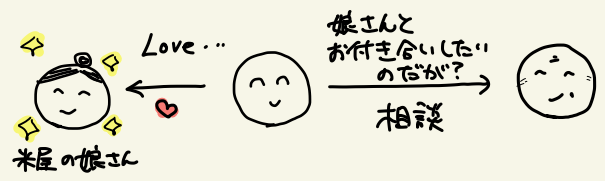
イモリの民俗学3

落語 イモリの黒焼き

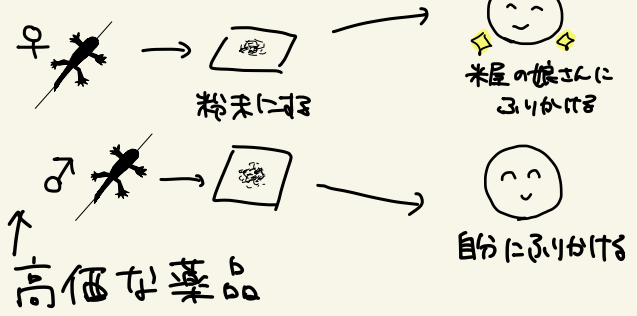


喜伊さんはその日の飯代に追われるくらい貧乏な男だ。

そんな喜伊さんはある日、米屋の娘さんに惚れて、どうにかお付き合いができないかと、甚兵衛に相談をする。

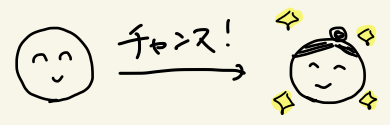


甚兵衛は、イモリの黒焼きの粉末を娘さんに振りかけて惚れさせる作戦を提案する。



まず、自分にオスのイモリの黒焼きの粉末をふりかける。

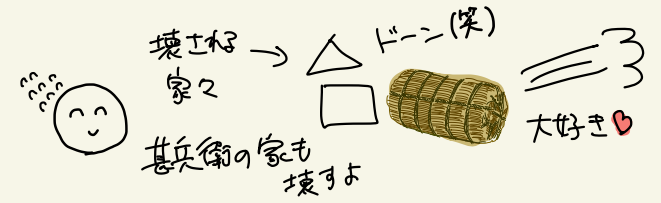
喜伊さんは娘さんに粉末を振りかける機会をうかがい、ついにチャンスが訪れる。



しかし風が吹いて、イモリの黒焼きの粉末は米俵にかかってしまった。



粉末の効果は抜群で、米俵が動き出して喜伊さんの方へやってくる。喜伊さんはびっくりして逃げるが、米俵はどこまでも追ってくる。



通行人が逃げる喜伊さんを見て「おーい喜伊公、何フーフー言いながら走ってんねや」
喜伊さん「苦しい〜」
通行人「何がそんなに苦しいねん」
喜伊さん「飯米に追われてまんのやがな」

何の話をだと思おう?

Youtubeで「イモリの黒焼き」ってしらべると桂米朝さんの落語がでてきます。オチを考えてみよう。

次回 イモリの民俗学4